

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

乳幼児期の発達についての基礎的な知識を学びながら、乳幼児への理解を深め、さらに「子どもの発達にとって大事なものはなにか？」について考える視点を身につける。公立学校での指導助言の実務経験を活かし、子ども理解の意義や発達と学びを捉える原理、及び幼児教育の今日的課題について概説したうえで、乳幼児期の発達のプロセスについて詳細に解説する。加えて、様々な幼児教育の実践方法を紹介し、それらを理論的及び実践的視点から考察する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）、子ども理解の意義
第 2 回	子どもの発達と環境
第 3 回	子どもの発達と学び①：発達の理論
第 4 回	子どもの発達と学び②：発達や学びを捉える原理
第 5 回	子どもを取り巻く環境の変化と幼児教育
第 6 回	子どもの発達のプロセス①：感覚・運動の側面
第 7 回	子どもの発達のプロセス②：自己・感情の側面
第 8 回	子どもの発達のプロセス③：社会性・対人関係の側面
第 9 回	子どもの発達のプロセス④：言語の発達
第 10 回	子どもの発達のプロセス⑤：認識の側面
第 11 回	子どもの発達のプロセス⑥：好奇心・探究心の側面
第 12 回	子ども理解にもとづく幼児教育実践①：個と集団の関係を捉える視点
第 13 回	子ども理解にもとづく幼児教育実践②：集団における経験と発達
第 14 回	子ども理解にもとづく幼児教育実践③：特別な配慮を要する子どもへの理解と援助
第 15 回	子ども理解にもとづく幼児教育実践④：保護者との関係づくり
第 16 回	定期試験

到達目標

- 子ども理解の意義、子どもの発達や学びを捉える原理、及び幼児教育の今日的課題について理解している。
- 子どもの生活や遊びの実態を捉えるための発達の理論や乳幼児期における発達のプロセスについて理解している。
- 理論的及び実践的視点から幼児教育の実践方法について考察を深めることができる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、コメントを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配付する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と期末試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。
授業内で適宜、参考文献を紹介する。